桝田幹也 (阪市大理) ： Almost toric manifolds and multifans

Toric variety と言う代数幾何学の対象と fan と呼ばれる組み合わせ論の対象との間の 1 対 1 対応を位相幾何学の立場から考察した

土屋昭博 (名大多元数理) ： 共形場理論と degenerate double affine Hecke 環の表現

量子可積分系としての 1 次元多体問題における代数的側面として、退化 2 重アフィン ・ ヘッケ環の表現論を調べ、ダンクル演算子の同時スペクトル分解を考察した

(1) テーマ ：シンプレクティック幾何、モデュライ、量子化
(2) 日時 ： １９９７年1月6日 (月) ~ １０日 (金)
(3) 場所 ： 信州大学松本旭キャンパス 「旭会館」
(4) 世話人 :阿部孝順 (信州大)，佐藤肇 (名古屋大)
(5) 参加人数 ：７０名
(6) 講演者名 (所属)、講演題目および講演要旨 ：

三松佳彦 (中央大理工) ： Between foliations and contact structures
３次元多様体の上の tight な接触構造の構成問題を、葉層構造と接触構造をともに含む構造を導入することにより、葉層構造の深い理論を用いて解決した

太田啓史 (名大多元数理) ： Monopole, contact strucutre and Hilbert scheme
３次元閉多様体上の fillable な平面場 (接触構造) のホモトピー類の連結成分が有限個であることを、サイバーグ ・ウィッテン理論のモノポール方程式を用いて証明した

辻幹雄 (京産大理) ： 接触幾何、特異点論、そして応用数学
接触幾何学、葉層構造、そして特異点論等の幾何学的方法の微分方程式および応用数学の問題への応用の解説

橋本義武 (阪市大理) ： Ashtekar 形式とその応用
実４元多様体の超ケーラー計量を体積保存ベクトル場を用いて構成した。これは、アシュテカ理論の real version である。

迫田誠治 (慶応日吉物理) ： WKB 近似で正確に解ける経路積分について
グラスマン多様体を相空間とする系の量子論を記述する経路積分をユニタリ群のコヒーレント状態を用いて構成し，それが WKB 近似で正確に解けてしまうことを示した

Vladislav GOLDBERG(New Jersey Institute of Technology) ： Web Geometry : Past, Present and Future
Web 幾何の歴史、意味、問題、線形化、代数幾何との関係、移動曲面、他の分野との関係などの総合報告

黒木玄 (東北大理) ： 共形場理論とラングランズ ・プログラムについて
数論における Langlands program を affine Lie 環の Compact Riemann 面と共形場理論の組が数論における代数体と保型形式論の組の類似物とみなすことによる研究

岡本清郷 (名城大理工) ： 幾何学的量子化と経路積分
量子力学系の時間的発展が幾何学的量子化によって得られることを示し、シンプレクティック等質空間上の経路積分をファイマンの原点に戻って計算した